

巻頭言	総合病院鹿児島生協病院副院長 平元良英	1
-----	---------------------	---

臨床研究

片側性心原性肺水腫の臨床像	馬渡耕史	2
白内障手術症例におけるα1遮断薬内服状況と術中虹彩緊張低下症候群の発症率について	福宿宏英	11
スギ花粉症に対する抗ロイコトリエン受容体拮抗薬（ブランルカスト）の2年間における治療効果の検討（JRQLQ No1 を用いて）	積山幸祐	13
当院集中治療病床での褥瘡新規発生の傾向と対策	西 有紀	18
CT線量低減における最適構成関数の検討（ノイズの評価から）	前原邦章	20

症例報告

慢性疼痛を主訴に受診した3症例	嶽崎智子	22
大腸癌穿孔症に対し準緊急的に手術を施行した1例	鎌谷泰文	26
低温熱傷から発症したブドウ球菌性毒素ショック症候群の1例	中村太一	29
DKAとFournier症候群を合併し緊急的な観血的処置を施し救命した症例	上田 剛	32
第26病日に著名な両関節痛を訴え、歩行困難となった川崎病の1例	前村良弘	34
退院後服薬支援の課題～小児科での服薬指導を通して～	徳重晴香	37

著書・論文

地域医療を担う民医連の「院長」とは…民医連のリーダーに	馬渡耕史	39
経尿道的膀胱腫瘍切除中に膀胱内爆発を生じた1例	白浜 勉	41
当院におけるチーム医療としての新しい外科SSIサーベイランス方式	森下繁美	44
急性副鼻腔炎の合併症	積山幸祐	52
地理的離島はあっても人の命に離島があってはならない	太田 健	58

学会発表・抄録		59
著書・論文一覧／講演・シンポジウムなど		67
臨床病理症例検討会（2012年4月～2013年3月）		69
投稿規定について・編集後記		175

巻頭言

総合病院 鹿児島生協病院
平元 良英



2012年の出来事として、10月に鹿児島生協病院の電子カルテ等システムの更新が行われ、医師の負担軽減や作業の効率化が図られました。当初は、検討課題が山積みでしたが、徐々に使い方も慣れてきつつあります。12月には谷山生協クリニックの増改修工事が竣工し、医局や医師研修医室が拡張しました。私が医局に来てから初めての引っ越しだったので（医局としては3回目の引っ越し）、机の整理に追われる日々が続きました。無事に引っ越しも完了し今は快適に過ごしています。他院所では、国分生協病院が開院30周年を迎え、川辺生協病院は療養病院へと転換した年ということで、鹿児島医療生活協同組合全体での改革がなされました。

学術活動として、学会発表が41件あり、当院医師4名が内科認定医を、1名が総合内科専門医を、12名がプライマリケア認定医を取得することができました。このような充実した学術活動を維持し続けなければいけないと感じております。

そして、この「鹿児島生協病院医報第16巻」が今年も発刊できたことは、医師やスタッフが常に症例を数多く経験し、臨床での研究を絶やさなかったためだと思います。研修医も年々増えてきており、私も及ばずながら研修医へ何が還元できるのかを考えながら、今後も医師養成に力を注いでいき、学術活動を発展させていきたいです。今後も鹿児島生協病院医報が発刊されることを望みます。